

【大学だより】

Yuanpei University Summer School に行ってきました

遠山 景子(64 回生)

平成 25 年 8 月 11 日(日)～21 日(水)の 11 日間、台湾新竹市にある元培科技大学の 2013 YPU Summer School に参加する学生 5 名に、富高智成先生と同行しました。国際医療福祉大学(主に看護学科)と合同で開講され、教員を含め日本からの参加者は 42 名でした。

元培科技大学は創設者 蔡 炳坤氏(13 回生卒業)の意志を受け継ぎ、ますます医療専門技術者の輩出に力を注がれており、来年 2014 年 11 月 8 日に創立 50 周年を迎えられます。

YPU Summer School での教員の役目は大きく 2 つあります。まず、大学の代表として 8 つのセレモニーでの挨拶・記念品交換と、いくつかのミーティングを通して、簡単でも心に残るようなパフォーマンスをすることです。放射線学科とのミーティングでは「学生は素質があっても勉強の仕方が分からないため、本領を発揮できない」という日本の諸大学の悩みと同じことを台湾も抱えていることが分かりました。

次に、学生が率先していかに外国人と交流でき、中国語を体得し、台湾の文化を知ることができるかを常に遠くから支える役目です。また、観光はほとんどなく、医療施設訪問が 4 カ所あり、他学部の学生に対して、放射線部門の装置説明をしなければなりません。富高先生にはリハビリ関係の説明をしていただきました。

今回の参加にあたり、台湾に出発する 1 ヶ月程前から文化交流のプレゼンテーション指導、プレゼント準備、セレモニーでの挨拶文作成その他と本格的な準備に入りました。直前になって元培からの要望も入ってきました。ころころ変化する内容に対して、同行する学生とは面識が浅いため、コミュニケーション不足の上に期末試験も重なってつらい思いをさせてしまいました。何ひとつ満足のできる状態とはならず、思い悩む日々が続きました。前向きにさせていただいたのは、教職員、学友会理事・支部長の皆様のご支援、ご指導があったからでした。心から弱っていることを心配して下さいました。

Summer School は朝から晩まで語学、文化、施設訪問などスケジュールがきっちり組み込まれ、夜には頭が廻りません。教員のための別行動が急に入るため、昼食時に翌日の学生関係の内容(主にプレゼントセレモニー準備、服装)の打ち合わせをしておき、常に先をみて行動するよう心がけました。学生の体調は朝食の量で確認しました。心優しい本学学生は色々助けてくれました。必要なことは必ず連絡、報告をしてきてくれました。

とてもハードなスケジュールでしたが、充実した日々を過ごしあつという間に帰国となりました。学生達は中国語、英語、日本語のちゃんぽんで寝起きも一緒に過ごし、帰る頃には元培科技大学学生との再会を約束していました。

いいメンバーに恵まれ、元培科技大学の身に余るおもてなしもあり、おかげ様で無事行程を終えました。

この場を借りて皆様に謝謝!

以上

* 通巻 209 号 2013 年 10 月 10 日発行
(H25-No.3)より



桃園空港にて



病院での挨拶